

海上都市開発における高規格プロムナード計画*

— 東京臨海副都心開発計画を事例として — *

HIGH STANDARD PROMENADE PLAN IN LARGE-SCALE MARINE CITY PROJECT *

— In Tokyo Metropolitan Waterfront Subcenter Project — *

新井 洋一** 中山 恭子***
Yoichi Arai Yasuko Nakayama

1. はじめに

東京臨海副都心開発計画は、東京の都心部への業務機能の過度の集中を分散・誘導し、都市構造を多心型へと転換し、加えて、国際化、情報化という時代の要請に応えるため、臨海部の埋立地の人工島上に、新たな副都心としての都市機能の集積を図ろうとするものである。

人工島による海上都市づくりは、陸域の既存の都市集積とは大きく分離した場所に、始動と同時に都市的なにぎわいを生じさせるため、全ての基盤施設の機能を同時に発揮させるなど、様々な工夫が課題となる。東京臨海副都心では、都市の基本条件を人と人、人と自然の交流機能の確保と考え、開発理念として、都市の骨格となる基盤施設としての人と人、人と自然の交流空間のネットワークの構築を先導的

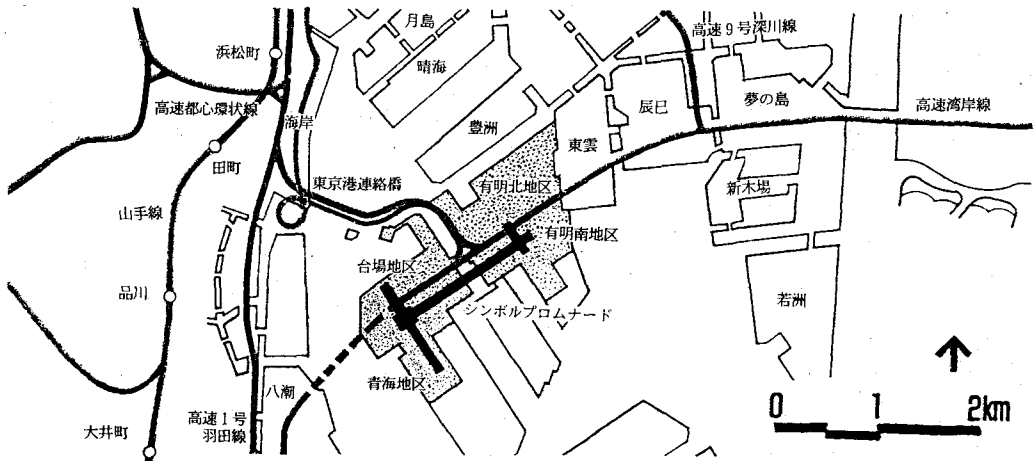
に行っている。これを、都市軸となるシンボルプロムナード計画の中で具体化している。

本論文は、このシンボルプロムナード計画を未来の都市空間における、人と人、人と自然の交流を担保する都市基盤の先進的な事例として、「高規格プロムナード計画」と概念づけ、その報告を行うものである。

2. 東京臨海副都心開発計画における交流空間計画の概要

(1) 東京臨海副都心開発計画

東京臨海副都心は、東京の中心から5～7 kmのところにある448haの埋立地の二つの人工島上に計画されている。



*キーワードズ：公園・緑地、空間設計

**正員、工博、東京臨海副都心（株）、

（東京都中央区明石町6-4、TEL 03-5565-8300、
FAX 03-5565-8318）

*** 工修

図-1 東京臨海副都心地域

この地域が首都圏の幹線交通軸上にあることから東京臨海副都心は、その好立地条件を生かし、情報と交流の国際都市、ゆとりと生き甲斐の生活都市、

高質なアメニティをもつ未来都市として計画され、完成期には、就業人口11万人、居住人口6万人が設定されている。

東京臨海副都心では、開発区域全体を、特性を有する4つの地区、情報のまち（青海地区）、交流のまち（有明南地区）、にぎわいのまち（台場地区）、生活のまち（有明北地区）として構成している。

（2）東京都海上公園構想

東京都は、昭和30年代の高度経済成長を背景とする東京港の港湾機能の特化による弊害から海を都民に取り戻す施策として、海上公園構想を昭和45年12月に決定している。海上公園構想は、葛西沖から羽田までの海域を一体的に、積極的親水性をもった自然に親しむ公園として整備するというものである。

海上公園は、水域を生かした海浜公園、風景を生かしたふ頭公園、緑を生かした緑道公園の3種類に分けられている。

東京臨海副都心の自然との交流施設は、こうした海上公園構想と併用して計画されている。

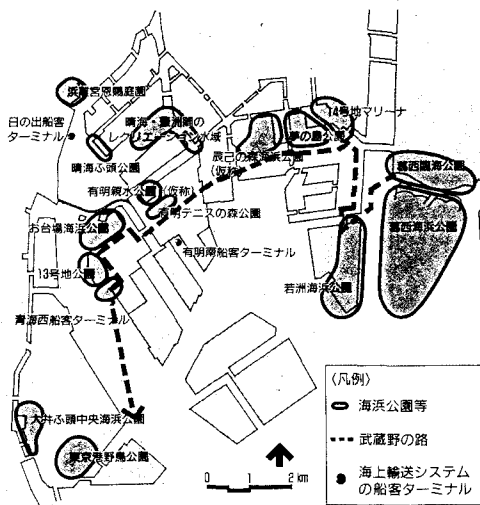


図-2 東京臨海副都心周辺の公園

（3）東京臨海副都心開発計画における交流空間計画

a) 緑地計画

東京臨海副都心地域には、海上公園構想を踏まえた既設大規模公園として、ふ頭公園としてのお台場海浜公園、緑道公園としての有明テニスの森公園に加え、都市型の公園としての13号地公園があり、さらに、海浜公園として有明親水海浜公園、ふ頭公園として有明ふ頭公園、青海その1ふ頭公園、青海その2ふ頭公園、水の広場ふ頭公園、青海ふ頭公園、緑道公園としてシンボルプロムナード、青海緑道公園、東八潮緑道公園、台場緑道公園、有明北その1緑道公園、有明北その2緑道公園、有明南緑道公園が計画されている。

これらの緑地は、東京臨海副都心の内部では一体的にネットワークされており、さらに、外部とは海上公園構想のより広域的なネットワークにつながっている。

b) 交流施設整備

東京臨海副都心の交流空間にあてられる面積は、全体計画448haのうち、緑地93ha、シンボルプロムナード26haになっている。

特に、シンボルプロムナードは、東京臨海副都心の主要施設である、お台場海浜公園、13号地公園、臨海副都心広場、テレコムセンター、水の広場、有明の丘、有明テニスの森、国際展示場などのそれぞれ独立した空間を一体的にまとめるため、人と人、人と自然の交流を担保する基盤施設と考えられている。

3. 東京臨海副都心シンボルプロムナード計画

（1）シンボルプロムナード計画の特性

シンボルプロムナードは、幅員80m、総延長4kmに及ぶ広大なもので、副都心の骨格として、中心軸を形成している。シンボルプロムナードは、ウォーターフロントの特性を十分生かした複合的な機能をもつ公共空間として、車両の通行は計画されない歩行空間としての機能に加え、広場の機能、公園の機能、都市的にぎわいを創出する商業的機能など、複数の機能を担っている。

シンボルプロムナードは、東京臨海副都心のそれぞれ特性を有する4つの地区を有機的に結びつけ、人びとの交流の場、にぎわいの中心となる。

また、水と緑のネットワークの中心軸として、周

辺の公園や水際線の公園との関係を強化し、臨海副都心の緑のネットワークの核ともなる。

シンボルプロムナード計画の特性は、骨格的に配置された都市の基盤施設として計画されていること、複合機能を有する都市空間として計画されるところにその独自性があり、臨海副都心を象徴する施設となる。

き出すことに重点が置かれ、自然を主体としたシンプルな空間構成が行われる。

(3) シンボルプロムナードの空間の規模、配置における特性

シンボルプロムナードは、緑の軸としての広大なスケール、地区の特性を生かす広々と開放的なスケール、

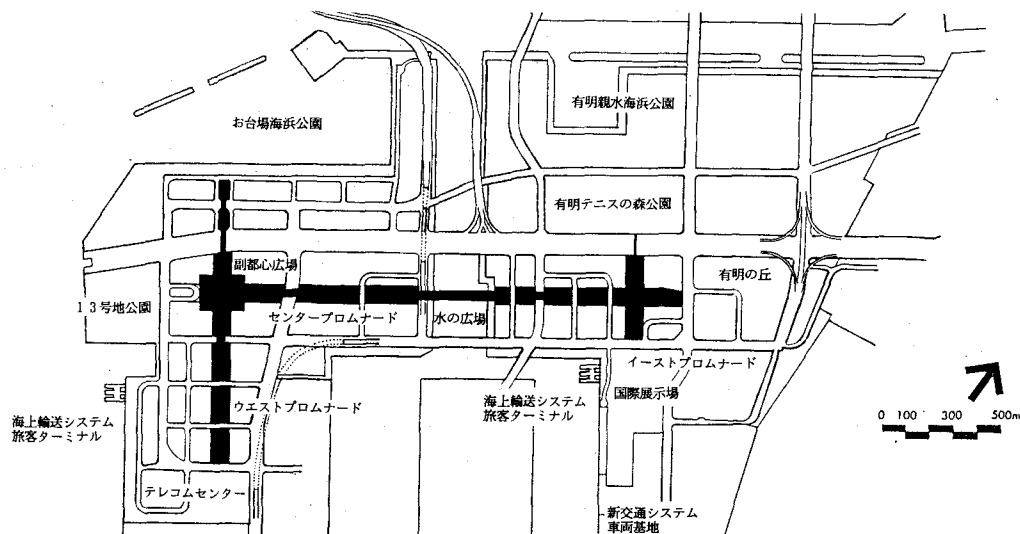


図-3 東京臨海副都心におけるシンボルプロムナード

(2) シンボルプロムナード計画の基本方針

シンボルプロムナード計画の基本方針は、緑の軸の形成、ヒューマンスケールな空間とシンプルな空間構成で行われる。

東京臨海副都心の巨大な人工空間の中で、シンボルプロムナードは、人びとの心をなごませる緑の空間として計画されている。既設の公園と都市空間とを連続的、かつ一体的に融合させるための緑の軸が形成される。

シンボルプロムナードは広大なスケールをもつものであるが、街のにぎわいを演出するため、シンボルプロムナード自体の内部において適切なスケール操作が行われる。

また、シンボルプロムナードは、多様な活動の場として、あるいは、街の成熟に応じた需要の変化に対応しやすいように、利用の柔軟性が求められている。そのため、施設計画では、空間本来の魅力を引

き出すことに重点が置かれ、自然を主体としたシンプルな空間構成が行われる。

シンボルプロムナードの中央部分の緑の軸は、青海地区、台場地区、有明北地区、有明南地区において、規模、配置など、それぞれの特性を生かして形成される。空間の要素としては、芝生、樹木、水などが中心になる。

街区沿いには、建築と一体となって街のにぎわいを生み出す空間が配置される。街区側との一体化を図るために、街区側とプロムナード側は連続的に構成される。そのため、街区側のテーブル、イス、ワゴンなどはみだしが許容されるような、柔軟な利用が可能になる。

都市のにぎわいを生み出すために、シンボルプロムナードには、従来の都市のオープンスペースがもっていた多くの機能が集められている。しかし、シンボルプロムナードは、こうした機能のひとつひとつ

つがバラバラに集積したものではなく、多くの機能をもつ空間が複合したものであることがその特徴となっている。

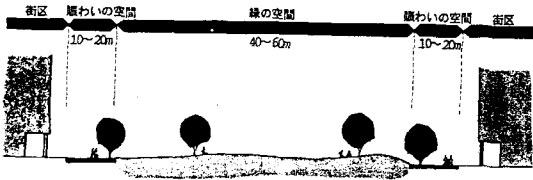


図-4 シンボルプロムナード標準断面

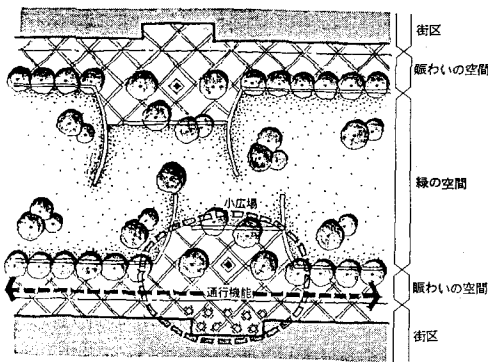


図-5 シンボルプロムナード平面構成

4. おわりに

わが国の伝統的な交流空間としては、かつての路地、社寺の境内や辻などがあげられる。これらは、わが国の伝統的な公共空間として、誰にでも共有され、親しまれる空間であった。また、同時に、遊び、集会、祭りなど、何にでも重層的に利用される空間でもあった。

東京臨海副都心のシンボルプロムナード計画には、448haに及ぶ大規模な空間を生かすために、その空間スケールに対応した広大な空間を、シンボルプロムナードとして配置し、それを緑の軸として形成し、また、街区沿いには建築と一体となって街のにぎわいを楽しむヒューマンスケールな空間が配置されている。

わが国の伝統的な交流空間には、例えば、路地や辻にみられるように、大規模なものは少なく、これらの形態をそのままシンボルプロムナードに応用できるわけではない。しかし、シンボルプロムナードにおける、共有の場、あるいは、人と人との交流によるにぎわいの場の形成には、特定の用途を求めない、さりげなさやあいまいさといった、伝統的空間のもっていた要素が感じられる。

シンボルプロムナードは、人と人、および人と自然の交流を担保する高規格プロムナードであると概念づけたが、さらに、街区と一体になったヒューマンスケールな空間が有機的に連続する大規模空間という意味で、わが国の伝統的な都市空間のコンセプトを有する空間、例えば、「スーパー路地」的な都市空間と提案できよう。

参考文献

- 1) 東京都：臨海部副都心開発基本計画，1988.
- 2) 東京都：臨海副都心開発事業化計画，1989.
- 3) 東京都：臨海副都心シンボルプロムナード，1991.
- 4) 東京臨海副都心建設（株）：シンボルプロムナード施設整備の造成に係わる基本設計及び諸調査報告書，1992.
- 5) 丸田頼一：都市緑地計画論，丸善，1983.
- 6) C・アレグザンダー：パタン・ランゲージ，平田翰那訳，鹿島出版会，1984.
- 7) 日本ナショナルトラスト：自然と文化「都市の路地空間」，1987.
- 8) 鳴海邦碩，田端修，榊原和彦編：都市デザインの手法，学芸出版社，1990.